

ライカの精密さと
ローライの魅力を兼ねた

Asahiflex

35mm 一眼レフ



発売元 株式会社 **服部時計店**

東京都中央区西銀座4丁目5番地

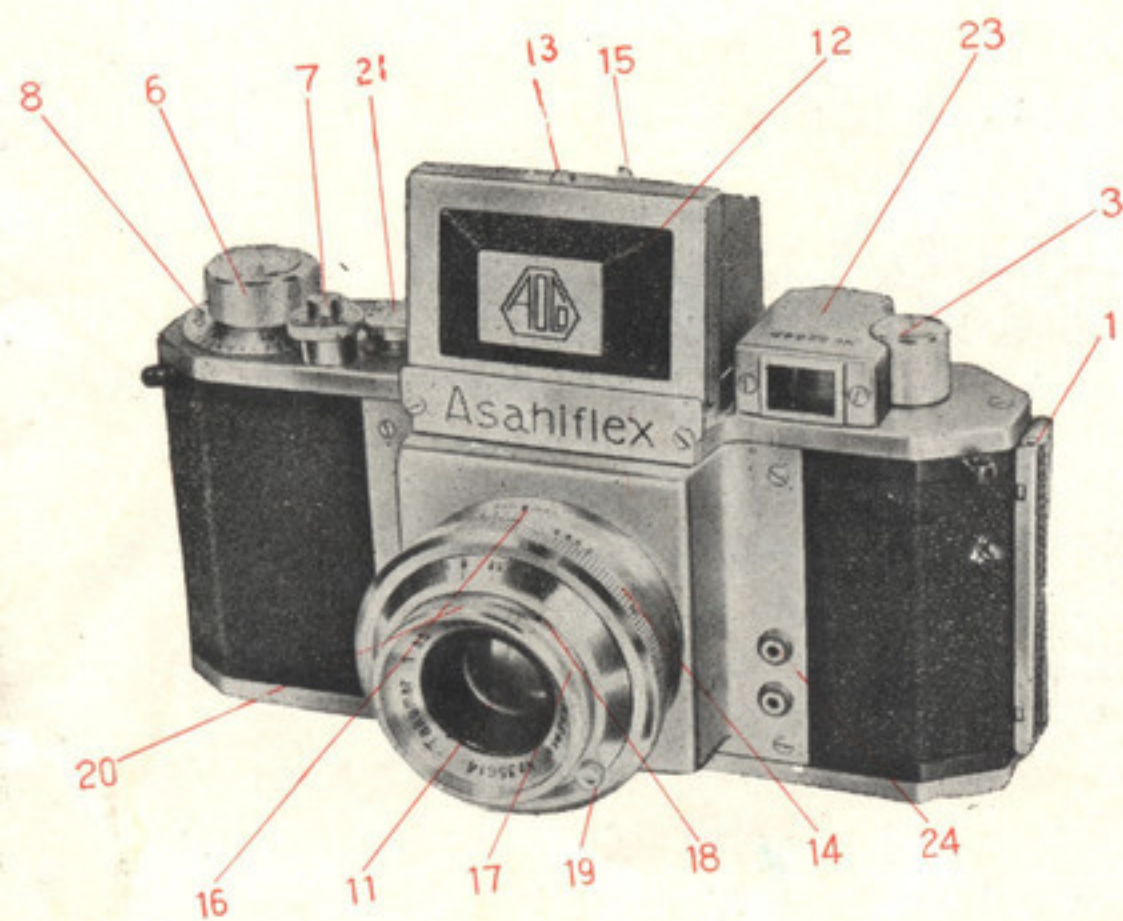
製造元 **旭光学工業株式会社**

東京都板橋区前野町980番地

万能35mm 一眼レフレックス

Asahiflex

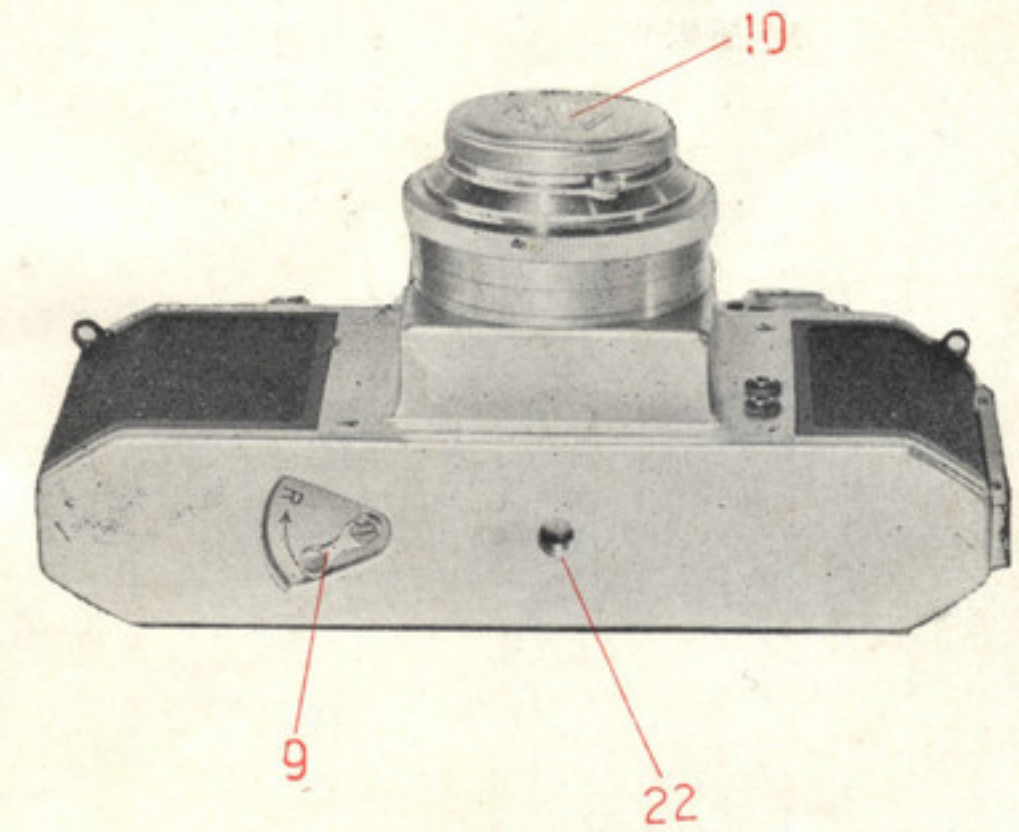
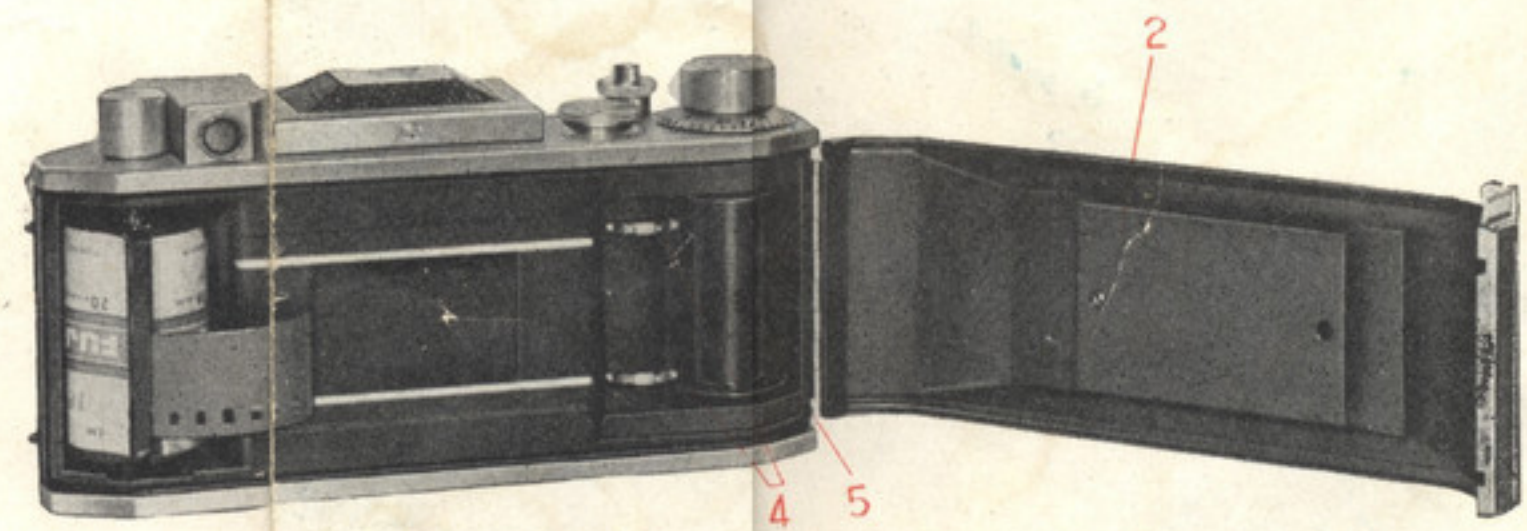
- 型式** 一眼レフレックス
- 使用フィルム** 35mmフィルム（日中装填用パトローネ使用）
- 画面サイズ** 24×36mm（ライカ判）36枚撮り（又は20枚）
- 標準レンズ** タクマー、Takumar f: 3.5 50mm（直進式鏡胴、プレセット絞付）
- シャッター** フォーカルプレーン、B、 $\frac{1}{25}$ 秒、 $\frac{1}{50}$ 秒、 $\frac{1}{100}$ 秒、 $\frac{1}{200}$ 秒、 $\frac{1}{500}$ 秒。
- 焦点調節** 撮影用レンズによる反射映像（45度に保った反射鏡による焦点板上の映像）を見ながら、レンズ鏡胴を廻転して行う。（2.5呎から無限大まで）
- ファインダー** 焦点板と別に透視式オブチカル・ファインダーを有す。
- シンクロナイズ** 同調発火装置を内蔵し、二芯式接続用ターミナルをカメラ前部に有す。
- 二重撮影防止** シャッターとフィルムの同時捲上げ式により防止
- レンズ交換方式** ネジ込み着脱により、各レンズ及び接続用中継輪による接写可能。

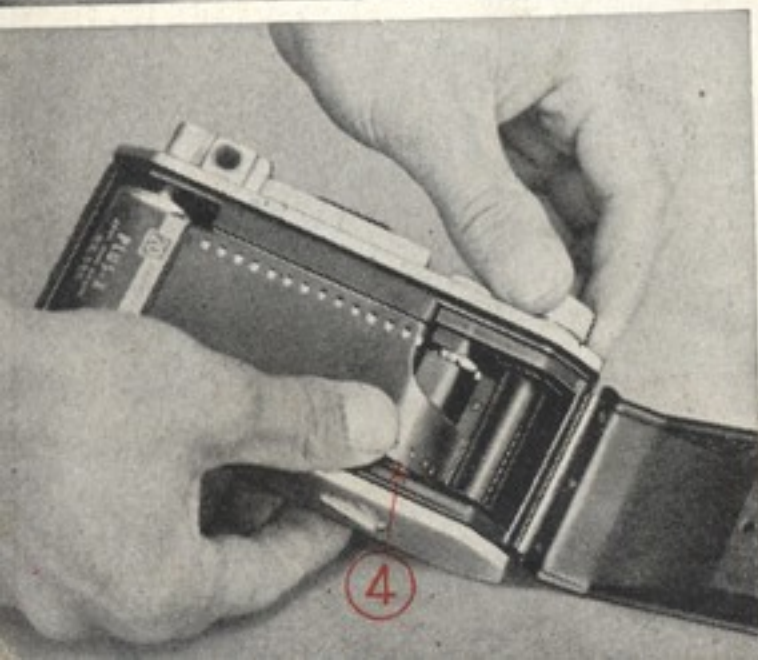
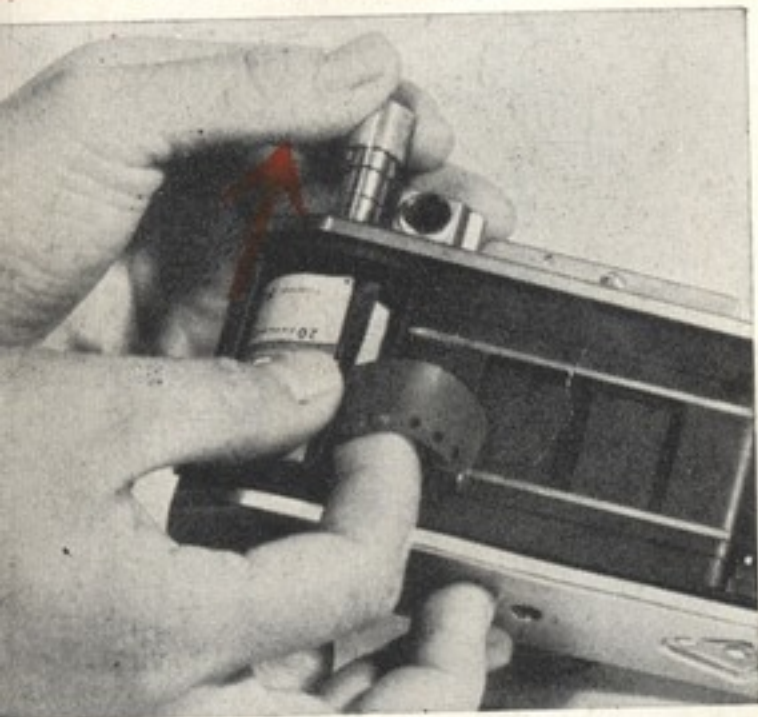
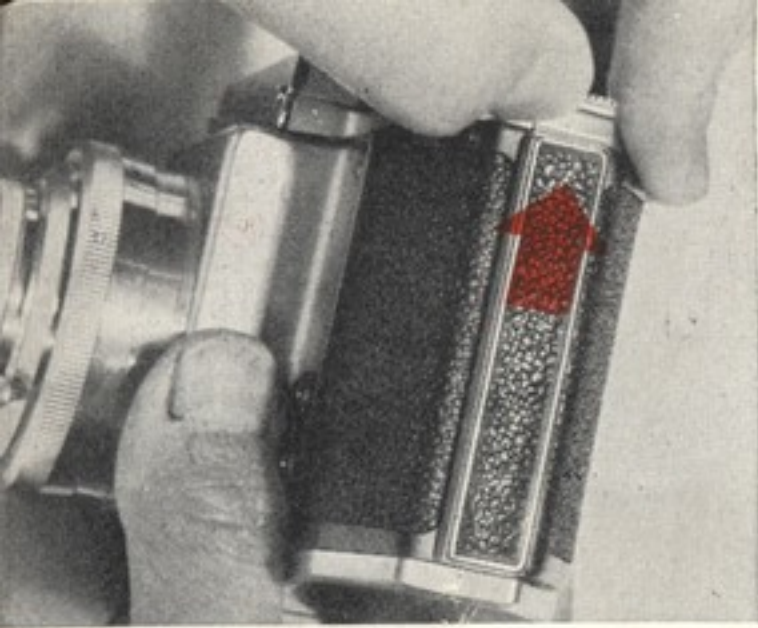


- ①裏蓋開閉用金具
- ②裏蓋
- ③フィルム捲戻しノブ
- ④フィルム進行用スプロケット
- ⑤フィルム捲取りスプール
- ⑥フィルム捲取りノブ
- ⑦シャッター・ボタン
- ⑧フィルム枚数計
- ⑨フィルム捲戻しレバー
- ⑩レンズキャップ
- ⑪レンズ
- ⑫焦点板日除け
- ⑬焦点日除け開閉凸起
- ⑭レンズ鏡胴
- ⑮焦点拡大鏡
- ⑯距離指針

- ⑰絞調節環
- ⑱絞指針
- ⑲プリセット絞調節ノブ
- ⑳プリセット絞指針
- ㉑シャッター速度調節盤
- ㉒三脚取付孔
- ㉓透視光学・ファインダー
- ㉔シンクロ・ターミナル

アサヒフレックス I A型
の使い方





I フィルム

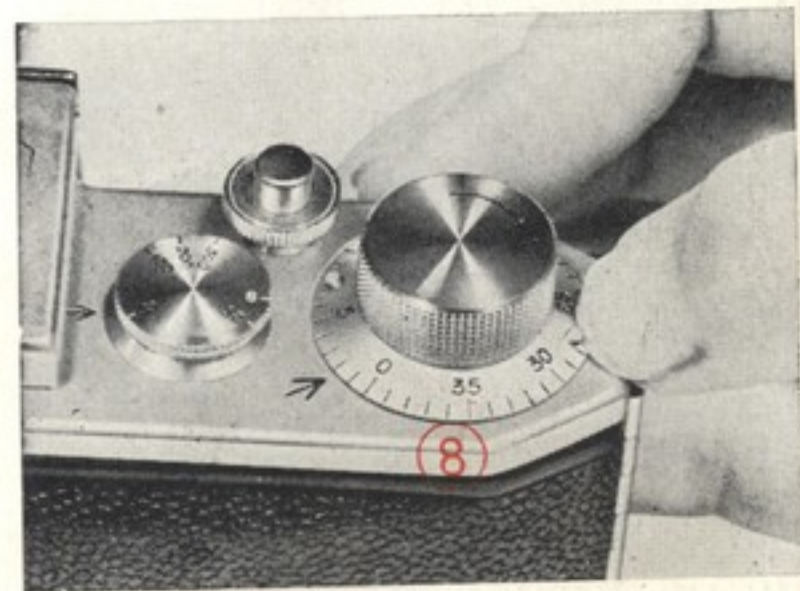
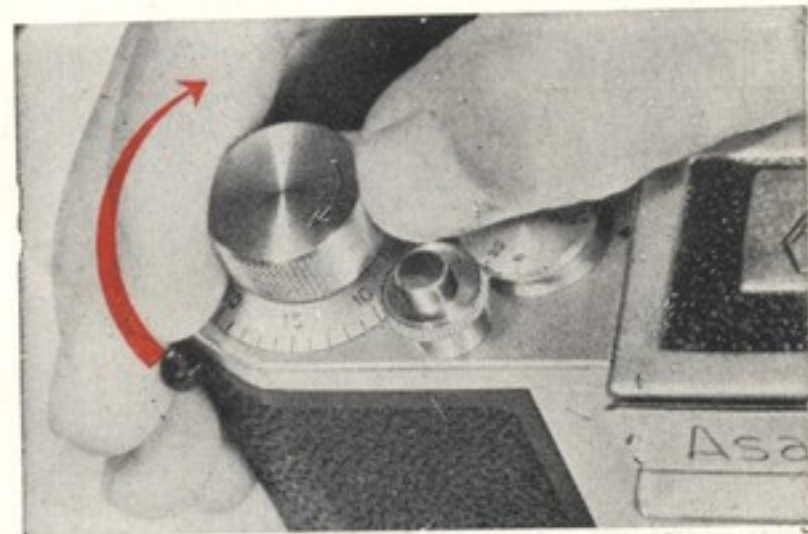
カメラへフィルムを入れるには、先ずカメラの裏蓋を開きます。裏蓋開閉用の金具①を上へ引き出しますと、裏蓋②が開きますから、フィルム捲戻しノブ③を十分上方へ引き出してから、こゝへパトローネを入れます。

フィルムの先を引き出して、フィルムの両側にあるパーフォレーション（穿孔）を、スプロケット④の歯にかみ合わせ、フィルムの先端を捲取りスプール⑤の溝にしっかりと差しこみ、捲取りノブ⑥を矢印の方向に廻転して見て、フィルムが捲取られてゆくことを確かめてから裏蓋を閉じ、止め金具①をもとの位置にしっかりと下ろします。

（日中装填用パトローネ）の入れ方

これでフィルムは入りましたが、パトローネから外部に露出していたフィルムは使用出来ませんから、捲取りノブ⑥を止るまで捲き、シャッター・ボタン⑦を押すと、捲取りノブ⑥がまたフリーとなりますから、更に二枚目のフィルムを進行させます。

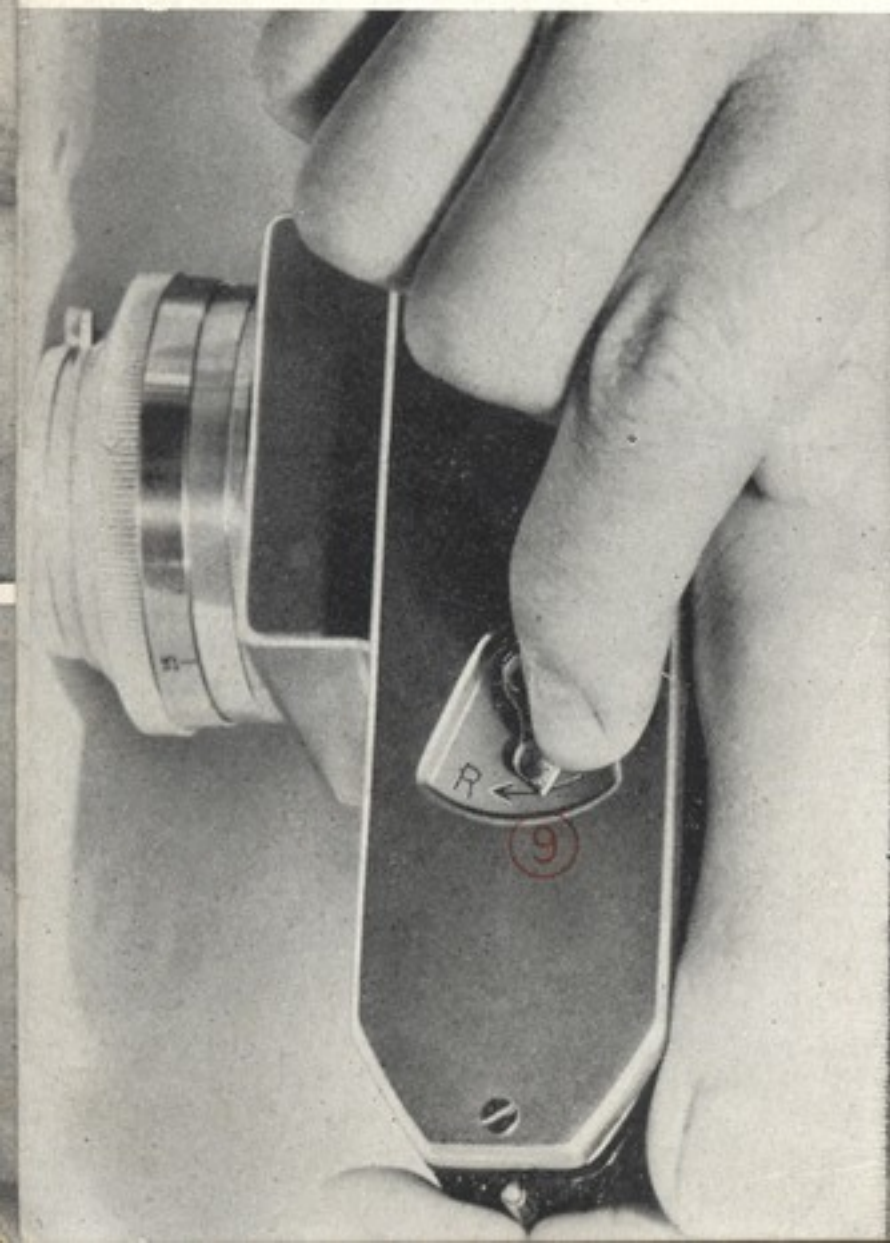
こうすると、撮影することの出来る第1枚目のフィルムが、カメラ内部の露光窓にあらわれているわけですから、捲取りノブ⑥の下部にあるフィルム枚数計⑧を、小さな二つのつまみで廻転し、矢印に1を合わせます。



II フィルムの交換

全部の撮影が終了しましたら、カメラ底部のフィルム巻戻しレバー⑨をRの方へ移動させます。

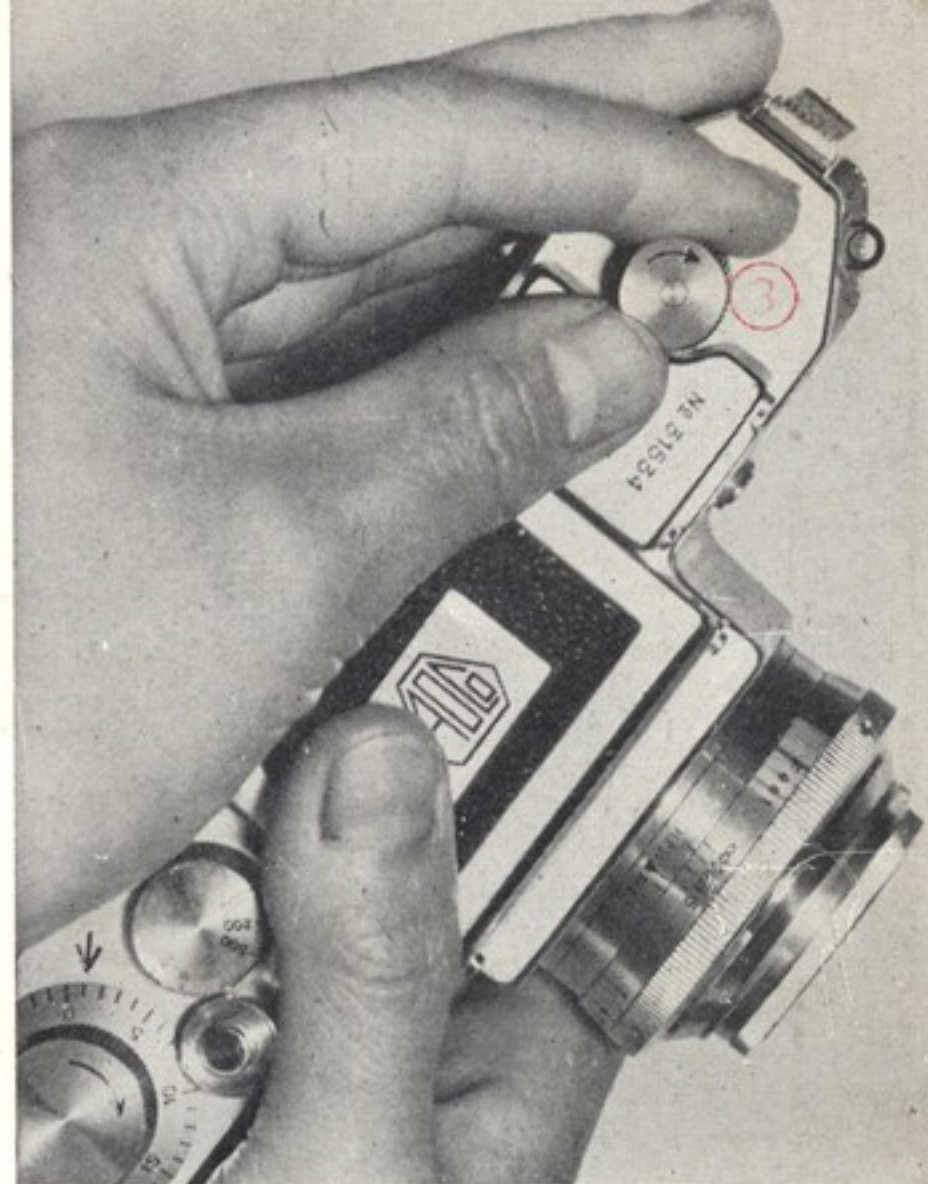
Rの方に巻戻しレバー⑨を移動させると、
スプロケットはフリーとなります



そして巻戻しノブ③の頭部だけを引きあげて、矢印の方向へ廻転させると、カメラ内部の捲取りスプール⑤に捲取られていた露出済のフィルムは、再びパトローネの中へ収容されます。

全部のフィルムがパトローネの中に戻りましたら（フィルムの先端が溝から外れるので急に捲取りが軽くなります）。

これで撮影されたフィルムの部分が、パトローネに戻ったことが分ります（カメラの裏蓋を開き、パトローネを取り出します）。



取り出したパトローネは直ぐケース等に収容し、光線の入らぬように保護します。

またパトローネの装填、あるいは交換等は出来るだけ直接日光下を避けて、日蔭や屋内で行って下さい。

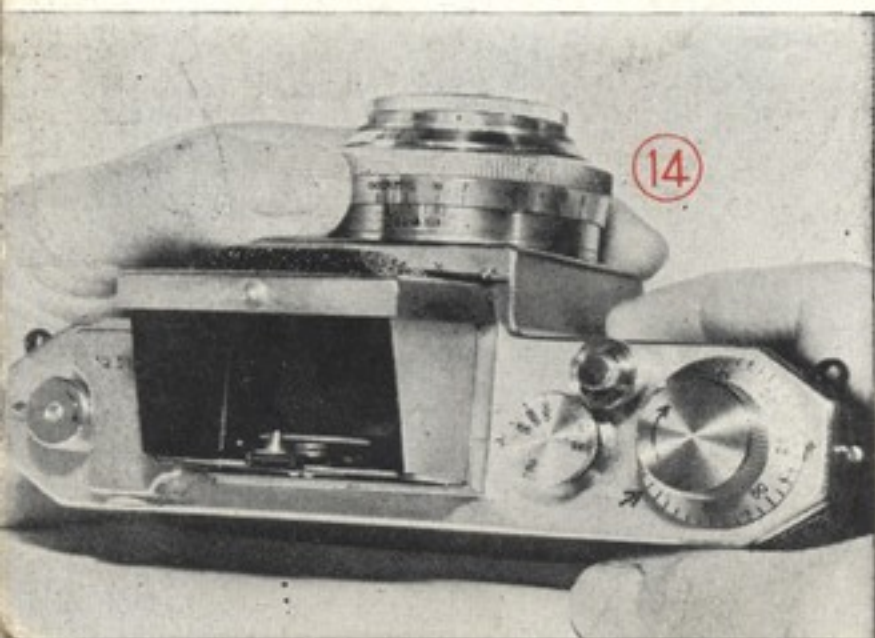
III 撮 影

1. 焦点の合わせ方

先ず、レンズ⑪を保護するため附属しているレンズキャップ⑩を外します。焦点板日除け⑫はたたみこまれています。後方の小さな凸起⑬を上へあげると四面の日除けが直立します。(たたみこむには、後方、左右、最後に前方のカバーとなる面を倒します)

レンズ⑪から入った光線は、カメラ内部にある45度の反射鏡によって、焦点板上に映像を結んでいます。この映像は、フィルム面に結ぶ像と全く同じものです。

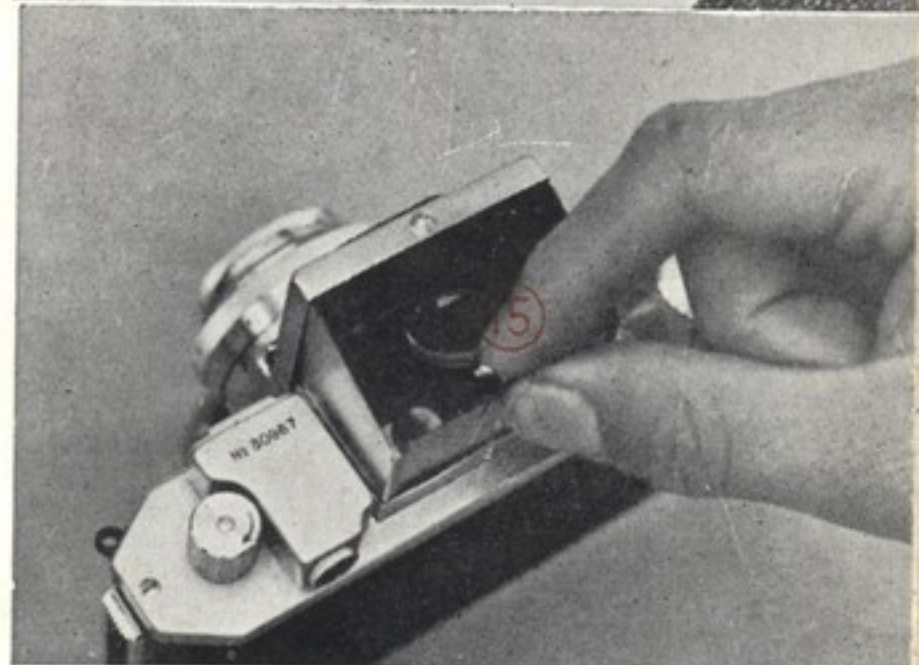
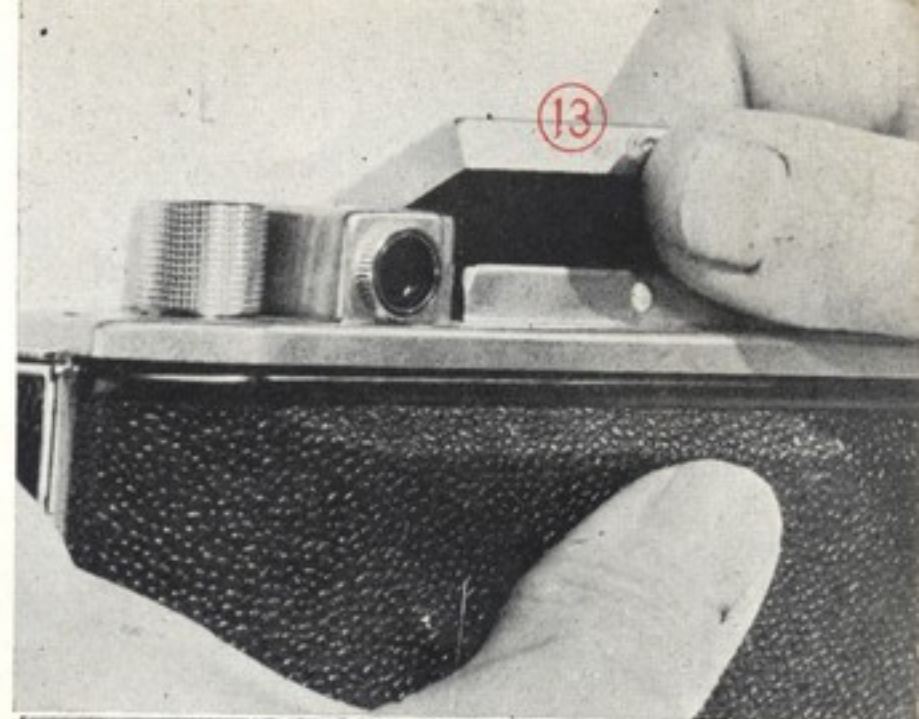
焦点を合わせるには、この焦点板上の映像を見ながらレンズ鏡筒⑭を廻転させて行います。



こうして、焦点の外れているぼんやりした被写体の映像が、明瞭に焦点板上に見えれば、そのままフィルム上に像を結ぶわけです。

またピント・グラス上の焦点を詳細にみるため、焦点拡大鏡⑮が附属しています。これは凸起を起せばピントグラス上に水平の位置につきます。焦点を精密に合わせるにはこの拡大鏡に眼をピッタリつけて覗きます。

アサヒフレックスは、焦点板に見たままに焦点を合わせられるので、誰にも容易に撮影結果が判断出来ます。





2. 距離スケールと被写界深度

被写体までの距離は、レンズ鏡胴（上図）の上に2.5、3、5、7、10、15、25、50、 ∞ とフィートで刻まれています。ピント・グラス上で正確な焦点を見出した時には、距離指針⑬に、目的物までの距離が示されています。

距離指針⑬を中心として両側に3.5 8 11と刻まれている数字はレンズの絞の数字をあらわしています。すべてのレンズには被写界深度といって、或る一カ所に焦点を合せても、その前後の距離にも焦点が合います。

この焦点の合う範囲を被写界深度といい絞の数字が多ければ多いほどこの被写界深

度は深くなります。

そして、3.5 8 11に於ける前後の被写界深度を距離指針⑬を中心として示しています。例えば15フィートの距離目盛が距離指針⑬に合ったとき、11の数字の絞を使用すると10フィートから ∞ （無限大）までの間が被写界深度内に入り、焦点が合うことがわかります。

望 遠 タクマー135mmにて撮影



3. 絞を決める

正しい焦点が得られたらレンズの絞を決定します。絞はレンズ鏡胴⑭の前部に刻まれている3.5, 4, 5.6, 8, 11, 16の数字によってあらわされています。そして希望するこれらの数字に絞調節環⑰を廻転して、絞指針⑱を合せます。

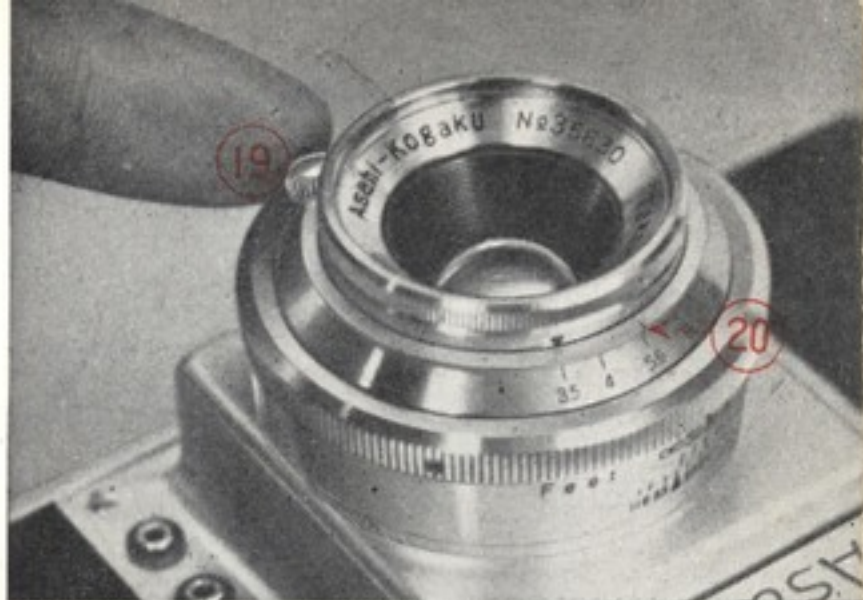
絞は被写界深度のほかに、露出時間を決めるのに大きく関係します。アサヒフレックスに刻まれている絞数字は、3.5より順々に、明るさは一目盛ごとに約半減しています。

4. プレセット絞の活用

撮影レンズそのものの結ぶ焦点を実際に見ながらピントを合わせられ(同時に背景のボケの程度も見られる)のが1眼レフの特色ですが、撮影用の絞では暗くて焦点の合わせにくい場合もあります。こういう場合絞を開放にして焦点を見ますが、シャッターを切る前にもう一度ファインダーを覗いている眼を離し、絞を改めて必要絞に絞らねばならぬ不便さが伴います。

プレセット絞はこういう不便さを完全に除く装置で、予め必要絞にプレセット絞を合わせて置けば、焦点は開放にして明るく見られ、ファインダーから眼を離さず、シャッターを切る直前にレンズ絞を絞れば、予め合わせた絞の位置に停止するのです。

プレセット絞の
使い方——(1)



プレセット絞の
使い方——(2)



プレセット絞の使い方には次の二通りがあります。

- (1) プレセット絞調節ノブ⑱を動かして、必要絞(例えば $f: 5.6$) に赤い刻みを合わせます。レンズ絞は $f: 3.5$ の開放のままで焦点を合わせ、シャッターを切る直前にレンズ絞環を廻わすと図のように所定の $f: 5.6$ で止まります。
- (2) レンズ絞環を図のようにもって必要絞(例えば $f: 5.6$) に合わせると、プレセット絞も同時に動いて $f: 5.6$ に止ります。

このままの絞で焦点を合わせてもよいし、暗くて見にくいときはレンズ絞を開放にして焦点を合わせ、シャッターを切る直前に手早く絞を絞れば、所定の $f: 5.6$ に止ります。

プリセット絞を元へ戻す時は、必ずプリセット調節ノブで動かします。

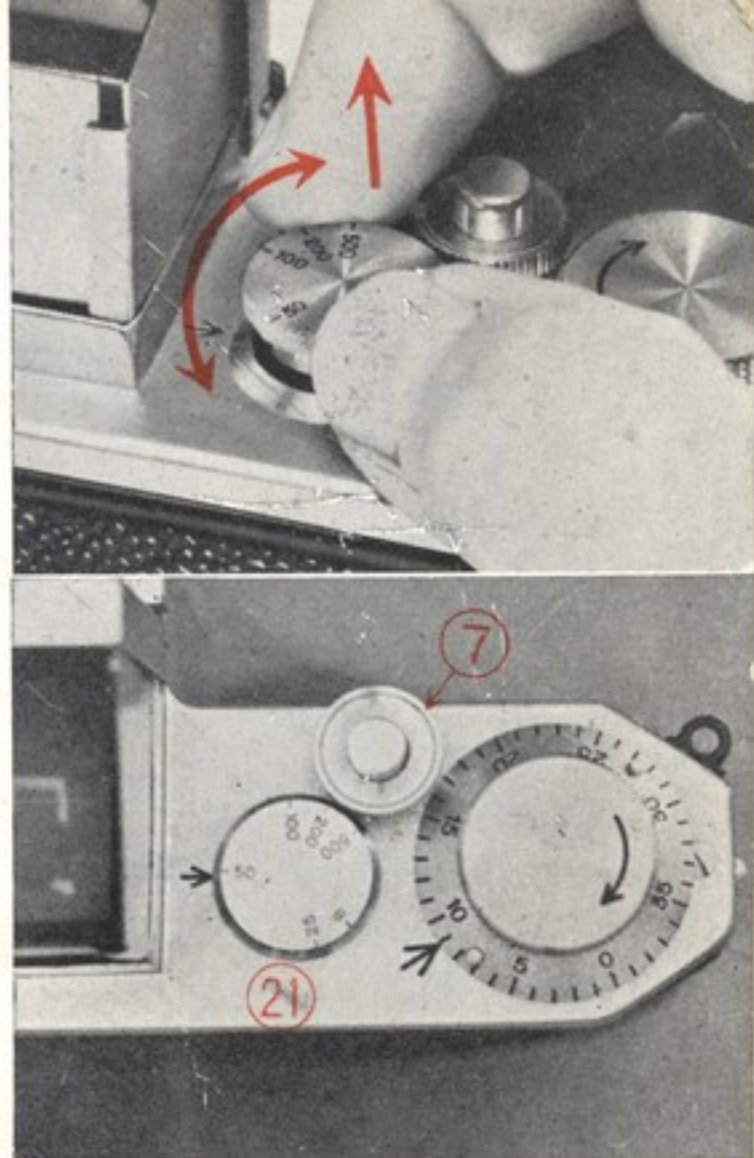
5. シャッター速度を決める

アサヒプレックスのシャッターは、フォーカルプレーンシャッターで、その速度はB（バルブ） $\frac{1}{25}$, $\frac{1}{50}$, $\frac{1}{100}$, $\frac{1}{200}$, $\frac{1}{500}$ 秒の種類が調節できるようになっております。これらの数字はシャッター調節盤②①の上に刻まれております。希望するシャッター速度の数字をシャッター速度指針に合わせておけばよいのです。

シャッター速度の変更はシャッター調節盤②①を軽く持ちあげて廻転し、シャッター速度指針に合わせて落とし込みます。B（バルブ）は、シャッター・ボタン⑦を押している時間だけシャッターが開いています。この場合カメラの動揺を防ぐため三脚を使用し、三脚取付孔②②にネジ込み使用します。

T（タイム）という比較的長い露出時間を与える場合には、シャッター・ボタン⑦の下部にあるリングを左方に廻してとり外し、ここにロッキング装置を有するケーブル・リリースをとりつけます。

シャッター速度を決めるには、シャッター速度調節盤を軽く持ちあげて廻転し、速度指針に合わせて落としこみます。



シャッターをかけたままにして永くおくことはできるだけ避けて下さい。若しシャッターをかけたまま納めておくときには、レンズにフタをして、シャッターを押しそのままにしておきます。改めて撮影をするときに、底面の捲戻しレバーをRへまわせば、フィルムは捲取られずに、シャッターだけがセットされます。

次に又、捲取りレバー⑨を元へもどせば、フィルムを一コマ無駄にせずに撮影ができます。

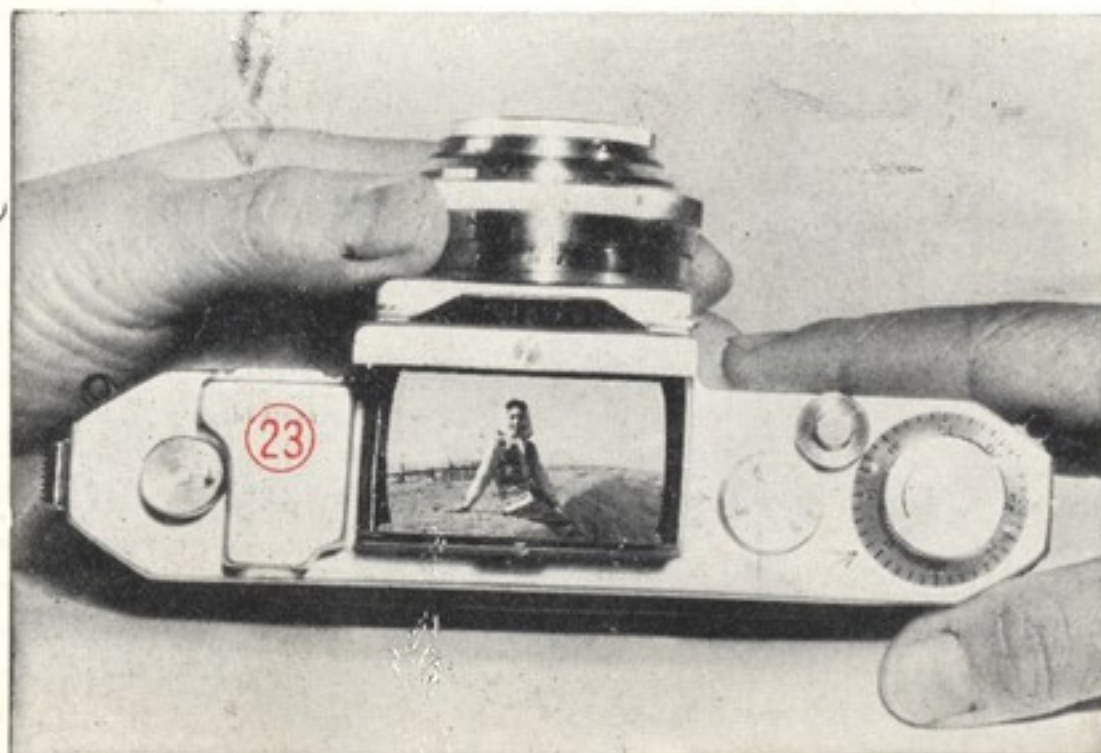
6. 構図を決める

焦点を見出し、絞とシャッター速度の調節が済みましたら画面の構図を決定します。ピントグラス上の映像が、そのままフィルム面に撮影できますから、慎重に、ピントグラスの四隅までみて、美しい構図を決定して下さい。

動体撮影、或は、スナップ撮影等には、透視オプティカル・ファインダー⑳が利用出来ます。

これは眼高位置（アイレベル）で構図も決定できますが、あらかじめ被写体までの距離をピントグラスか或いは距離指針⑯によって合せておかねばなりません。

また縦位置の画面にするときも、ピントグラス上の映像が見にくいときに、この透視オプティカル・ファインダー㉓を使えば、簡単に構図を決定することができます。



拡大鏡を眼につけたままで、カメラを顔に押しつけ安定を保ちつつ、シャッターを切る。



拡大鏡で精密な焦点を合わせた後、これを倒し、カメラを胸の位置に下げ焦点板を見て構図を決める。





あらかじめ焦点を合わせておき、透視ファインダーで構図を決める。

7 露 光

フィルム面に露出を与えるには、シャッター・ボタン⑦によって行います。カメラをしつかり保持して静かに下方に押すと、上部のピントグラスに映像を送っていた45度反射ミラーは、スプリングの力ではね上り、瞬間にシャッターは作動してフィルム面に露光を送ります。

このとき、シャッター調節盤⑳も廻転しますから、こゝにふれぬよう御注意下さい。

露出が終って、シャッターボタン⑦を離すと、45度反射ミラーは、直ちに所定の位置に戻りますから、被写体の映像を直ぐに再確認でき、また次の撮影態勢がとゞのえられます。

8 フィルムの捲取り

次のフィルムを移動させるには、捲取ノブ⑥を止まるまで矢印の方向に廻転させます。止まるまで廻転することにより、一枚分のフィルムが捲取られ、同時にシャッターがセットされます。このため二重撮影の失敗は絶対にありません。またフィルム枚数計⑧も自動的に次の枚数を示します。

焦点板でピントを合わせた後、図のようにカメラ背面を額に当て、透視ファインダーで構図を決めて写す。縦位置の写真うつす時はこの持ち方が安定的で良い。



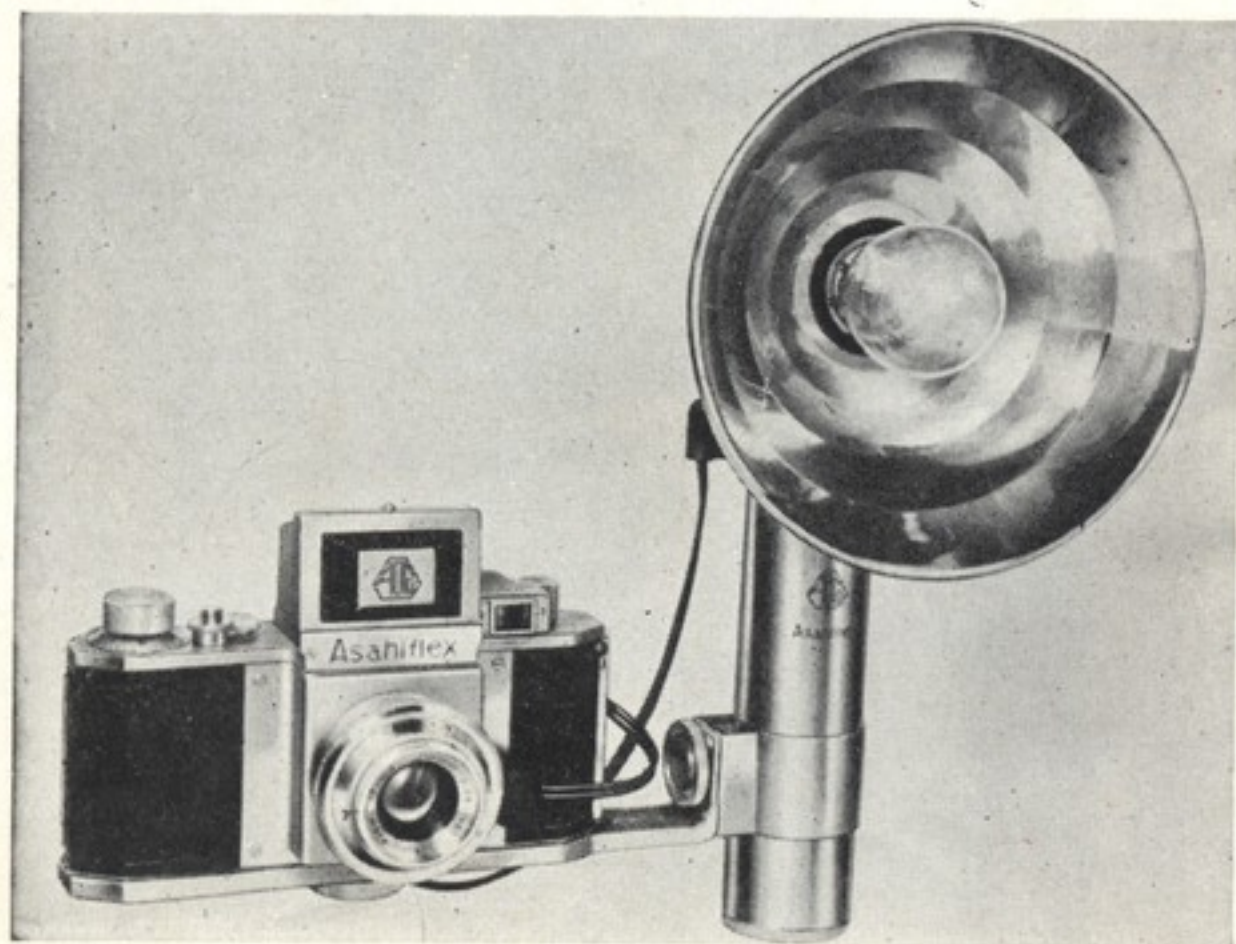
9 シンクロ・フラッシュ撮影

閃光電球（フラッシュ・バルブ）の発光をシャッターの作動と同調して行う撮影を、シンクロ・フラッシュ撮影と言います。

アサヒフレックス専用発光器のプラグを、シンクロ・ターミナル②④に接続すれば、確実に全速度のシャッター作動と同調して発火するように、カメラ内部が設計されております。

このため、アサヒフレックスは、夜間でも室内でもいかなる場合でも瞬間のシャッター速度で容易に鮮明な美しい写真を撮影することができます。

閃光電球はフォーカル・プレーン・シャッター用（FP級）をお使い下さい。



タクマーレンズ群

アサヒフレックス専用として、標準レンズ以外に、次の交換レンズ・タクマーが備えられています。いずれも独特の設計になり、コーティングされた高性能のレンズで、500mm 以外は全てプリセット絞であります。

望 遠

長 焦 点

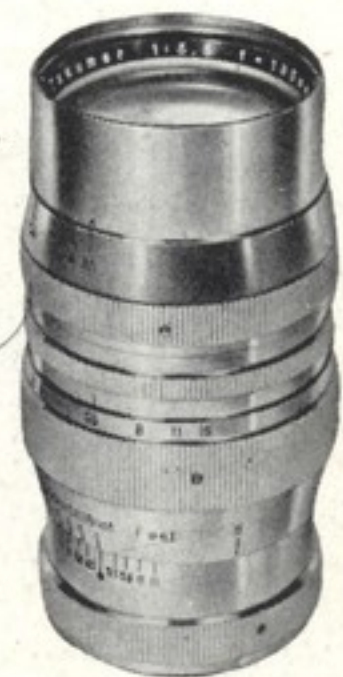


タクマー
f: 3.5
100mm

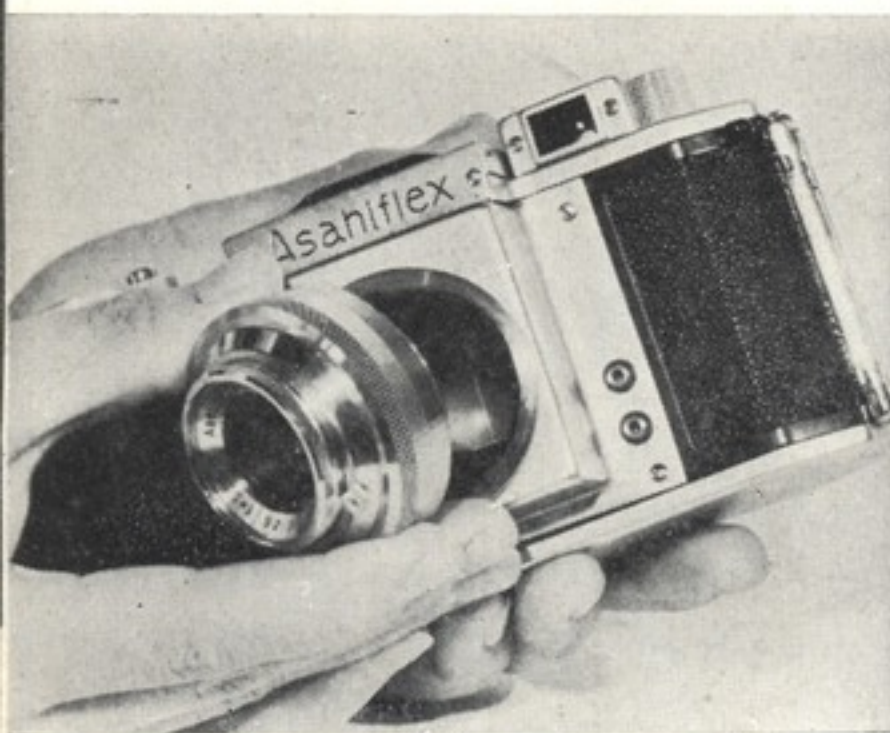
長焦点大口径



タクマー
f: 1.9
83mm

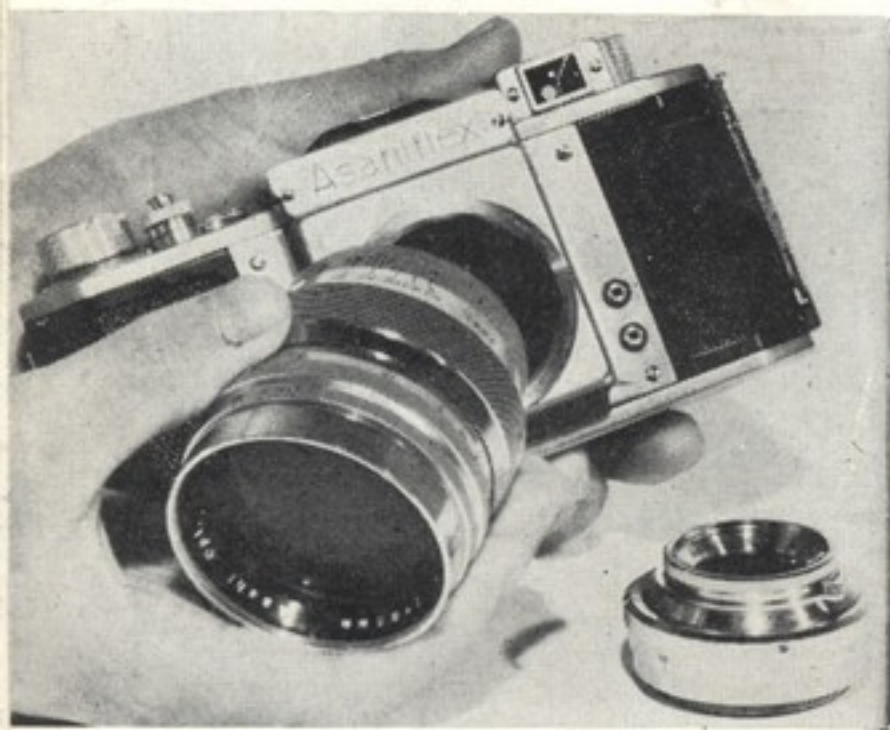


タクマー
f: 3.5
135mm



10レンズの交換

レンズはネジ込み式で容易に着脱出来ますから、標準レンズ以外の各種の交換レンズを簡単に使用することが出来ます。



又どんな交換レンズを用いても、ピントグラス上で映像が見られますから、非常に簡単で、確実に交換レンズ群の偉力を発揮することが出来ます。

レンズを外す場合も、フィルム
の交換と同じく、直射日光下を避けて下さい。



11 接写・複写

アサヒフレックスは撮影用レンズの映像の45°反射ミラーにより、ピント・グラスの上で見る機構になっておりますから、視差（パララックス）は皆無です。このため、接写、複写に最も適したカメラであります。2.5 フィート以内の接写を行ふ場合には、レンズを取り外し、このレンズ部分とボディとの中間に、専用の接写中継輪を使用します。これは四種あつて、No.1

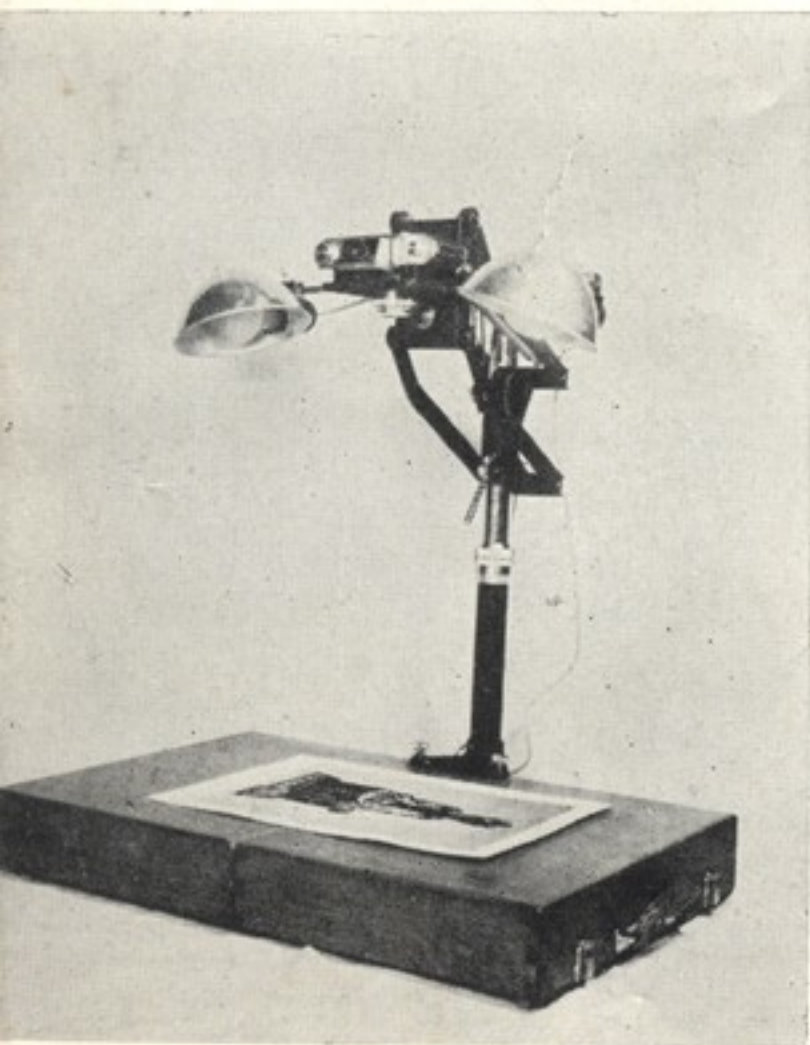
は被写体までの距離40cmから70cmまで、No.1No.2No.4の3種類を組合わせると実物大の接写が出来ます。以下別掲の表(24頁)の如く接写することができます

専用複写装置

複写をされる場合には、接写の場合と同様、複写をする被写体の画面の大きさに応じて、適当な接写中継輪を選択し、特に平均した照明の得られるアサヒフレックス専用複写装置を使用されるのがよろしいでしょう。

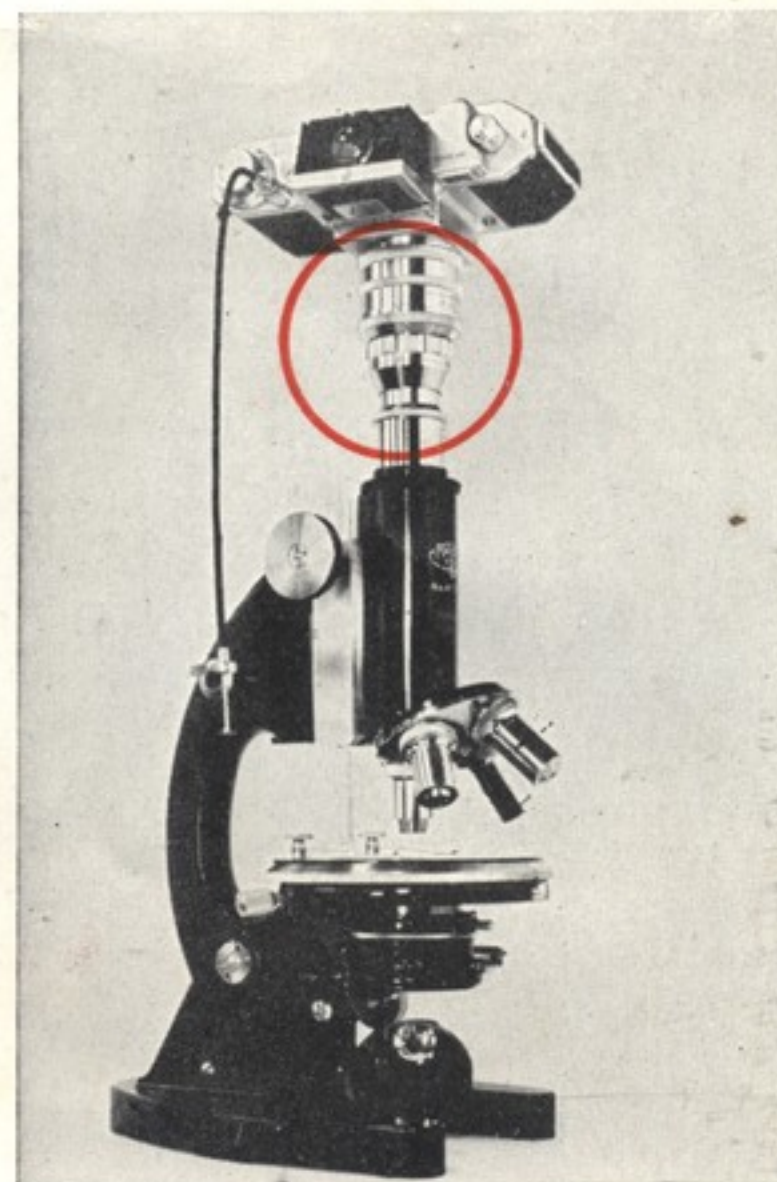
文献の複写に、古くなった写真の複写、絵の複写等その他何を複写する場合でも使用できますので、特に学校、工場、研究所等にはぜひおすゝめいたします。

携帯用ケースを複写台としてこれに支柱、パンタグラフを取りつけると、簡単に組立てられ、カメラの上下移動にはパンタグラフ式により



ワンハンドで簡単に動かすことができ、焦点合せと画面の決定が容易に可能です。

尚、カメラ取り付け部分は自由に傾斜させ、その位置で固定することができますから、水平位置だけでなく、自由な角度で小物体の接写が出来ます。



アサヒフレックスは、また顕微鏡写真や、天体望遠鏡写真、分光器によるスペクトル撮影等にもそれぞれの光学系との合成により撮影が可能です。顕微鏡写真のためには「顕微鏡アタッチメント」が発売されております。



接写撮影距離表

タクマー標準レンズ50mmに接写中継輪
を組合わせた場合の撮影距離

中継輪 番号	被写体よりフィルム面までの距離	
	最近距離	最遠距離
No. 1	40.9 cm より	70.1 cm
No. 2	31.8 cm	40.9 cm
No. 3	24.7 cm	27.2 cm
No. 4	21.1 cm	22.0 cm

タクマーレンズ群



標準 f: 3.5 50mm

長焦点 f: 3.5 100mm

望遠 f: 3.5 135mm



長焦点・大口径
f: 1.9 83mm

望遠 f: 5 500mm

